

成田市の誕生



成田小学校講堂で行われた市制施行祝賀式

昭和29年3月31日に誕生した成田市は、ことし、平成26年で市制施行60周年を迎えます。そこで本号から、本市が歩んできた60年にわたる歴史を、写真や資料で振り返る「シリーズ成田市60年（全10回）」を掲載します。

旧成田町を中心に 1町6カ村が合併

成田町・公津村・八生村・中郷村・久住村・豊住村・遠山村の1町6カ村が、対等合併して誕生した成田市。

昭和29年3月31日、千葉県下で11番目の市として、8,732世帯、人口4万4,724人の「観光と農業のまち成田」が産声を上げました。

成田市誕生前夜の動向

戦後の町村合併は、昭和28年施行の町村合併促進法により全国的に推進されましたが、千葉県では一足先に動き出していました。

昭和27年当時、印旛郡の東部では、成田警察署管内の成田町・公津村・八生村・中郷村・久住村・豊住村・遠山村・富里村（現富里市）・安食町（現栄町）の2町7カ村で、合併を進めるのが最適だと考えられていました。

しかし、富里村は県から、人口・財政ともに適正規模であるた

め合併の必要はないと判断され、安食町は住民の強い反対などがあり参加せず、この合併案は日の目を見るに至りませんでした。

ただ町村合併は、当時の各町村に共通の懸案事項であった財政危機を、克服する有効な手段として考えられていたため、合併への機運は衰えることなく、昭和29年1月14日には、富里村・安食町を除いた1町6カ村で「合併協議会」を設置。

その後、①対等合併、②新市名は成田市、③合併期日は昭和29年4月1日などとする「合併基本要領」が作成されました。

なお実際には、県の助言により、昭和28年度分の町村合併補助金などを受けるため、合併期日が1日早められています。

117人の議員が 結集した初議会

「旧町村の議員は特例として1年間市議会議員となる」とする合併条項により、発足したばかりの市の議員定数は130人にも。

Narita Chronicle

「昭和29年の出来事」

- 3月 1町6カ村が合併して成田市が誕生
- 4月 初代市長選挙、石原貞三氏が当選
- 5月 市章制定
- 7月 旧町村消防団が合併し市消防団結成
市制施行祝賀行事



市制施行の祝賀ムードを盛り上げた福引抽選会



成田小学校校庭で行われた消防団の結団式



市制施行当初の市庁舎は旧成田町役場を使用



市制施行を祝い市内を練り歩く提灯行列

このため、全議員が一堂に会して審議する場所がなく、初の市議会(当日の出席者は117人)は、成田小学校の講堂に議場を特設して開催されました。

初代市長は石原貞三氏に

合併直後に行われた市長選挙では、成田町長を務めていた石原貞三氏が当選。石原市長は市政のスタートに当たり、「成田市は観光と農業を生命といたします」「成田市政だより(昭和29年5月1日号)」からと所信表明し、新生成田市の第一歩を踏み出しました。

成田市消防団が結成

火災や事故に備えるのはもちろん、印旛沼や利根川に接し、毎年水害の危機にさらされていた成田市では、一日も早い消防団の結成が望まれていました。

昭和29年7月6日、旧町村の消防団が合併し、成田市消防団が結成。成田小学校の校庭で開催された結団式には、総勢約600人も団員が参加。県知事をはじめ多くの来賓も出席し、盛況のうちに行われました。

祝賀行事が盛大に

成田市の前途を祝福しようと、

成田祇園祭に合わせ、市制施行祝賀行事(昭和29年7月6日・10日)が開催されました。

成田小学校の講堂で開催された市制施行祝賀式を皮切りに、6日夜には、国鉄(現JR)成田駅周辺で提灯行列、8日には国鉄成田駅前で、当時の人気歌手・小唄勝太郎さんの歌謡ショー、9日には仮装行列、10日には花火大会など、数多くの催しが盛大に行われました。

当時の広報紙は、4,000人を超す市民が市内を練り歩いた、提灯行列の延々と連なる光のうねりを「火の海と化した提灯行列」(「成田市政だより(昭和29年8月10日号)」)からと伝えていきます。

市章を制定

中央の輪に、周囲の6つの輪が重なる当時の成田市の市章。1町6カ村の大同団結を意味しています。図案は一般公募で集まった作品の中から選ばれ、昭和29年5月7日に制定されました。以後、成田市が旧下総町・旧大栄町と合併したことに伴い、平成18年4月29日に現在の市章が制定されるまで使用されました。

